

武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社  
平成 17 年度 第三回放送番組審議会 議事録

開催日時：平成 17 年 6 月 29 日 16：00～17：00

開催場所：セコム SC センター 3-1 会議室

出席者：城所吉次 堀井建次 牧野洋子 川井信良 久保律子 中山広明

(欠席者) 見城武秀 大久保康夫

武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社  
山口忠弘 島野浩二 事務局 佐々木一雄  
ジャパンケーブルネット株式会社  
安齋洋一 植木敦子

議事

(1) 開会：司会 島野 浩二

(2) 委員自己紹介：委員の差し替えがあったので、改めて自己紹介を行った。

武蔵野市 檜山氏?堀井氏 シニア SOHO 堀池氏?久保氏

(3) 会社近況報告：山口社長より、当社の近況が報告された。主な点は以下の通り

当社の経営状態について。3 期連続の黒字達成

当社の市場占有状態について。主にコミュニティーチャンネル視聴可能世帯の伸び  
デジタル化の進捗状態について。

(4) 4 月からの新体制と、今後の方向について JCN 安齋氏より

親会社の JCN の放送制作部門の統合化により、今年の 4 月より MM 放送制作部の JCN 出向の説明。

今後のグループパワーの結集の狙いが語られた。

あわせて、MM のコミュニティーチャンネルの評価が行われた。

他局の模範となるべき要素が多いとの指摘を受けた。

行政との協調、採算性のバランス、パブリックアクセスの実施など。

(5) 6 月からの新ラインアップの説明 佐々木ディレクターより説明

デイリーで行う「街角フラッシュ」一寸突っ込んだ「ウィークエンドニュース」

ペットファン向けの「わんにゃん共和国」両市の協賛を得た「プレイガイド  
セレクション」などについて主に説明がされた。

(6) 都議会議員選挙に関わる討論会の放映についての報告と説明

6月18日（三鷹市）6月19日（武蔵野市）に両市の市民団体が主催し  
立候補予定者の演説会・討論会が行われた。

当社は以前よりケーブルテレビの責務として、地方選挙については、  
積極的に対応する方針であり、今回も主催者の依頼により  
フル収録・フル放映を予定していた。

三鷹市については、順調に放映でき評価されたが、武蔵野市については  
以下のようなトラブルが発生し放映を実施しなかった。

- 1.フル収録を終え、放映前の日にある陣営から「フル放映については、  
事前の了解をしていない。従って、著作権・肖像権等の問題から放映の中止を求める。  
主催者とよく確認して欲しい」とのTELが入った。
- 2.主催者の武蔵野青年会議所に確認したところ「CATVの取材は入る事は  
了解を取っているが、フル放映については確認を取れていない」との答えであった。
- 3.当社としては、主催者の連絡ミス、確認不足と判断し、放映を断念した。
- 4.当社に向けて、他陣営や、マスコミ、一般市民から放映中止についての質問  
クレーム、が相次ぎ理由を説明するのに大変な労力を費やした。
- 5.加えて、主催者がマスコミや他陣営に自らのミスを糊塗し「主催者としては、  
何度もCATVに放映希望をし、断られ抗議した」などのコメントを発表し、  
結果として、当社があたかも事実と異なる政治的な圧力に屈したかのような  
印象を各方面に与えることとなった。

※ この問題にどう対応するべきかが議題となった。委員から出された意見は以下の通り

1. 主催者の無知や、無定見には厳重に抗議すべきだ。
2. 事実を、放送やホームページで明らかにし、名誉回復に努めるべきだ。
3. 著作権、肖像権などの問題を視聴者にもキチンとレクチャーすべきだ。等々

(7) ケーブルテレビのデジタル化とコミュニティーチャンネルについて 山口社長より報告・説明

地上波デジタル放送が完全実施される2011年までにコミュニティーチャンネルの  
デジタル化を実現する必要がある。しかし今のところその方法、については、  
技術的、制度的、許認可等の問題が横たわっているが、JCN、ケーブルテレビ連盟  
ケーブルラボなどを通じて、最大限の努力をしている。

両市の側面からの応援をお願いしたい。

(8) 閉会

以上で今回の番組審議委員会は終了した。